



前号のおさらい：金のストキャスティクス

発行日：2014/2/21



前回2月7日発行のテクニカル分析において、「東京金は20%以下の売られ過ぎのゾーンで、%Kが%Dを下から上に抜けたゴールデンクロスとなり買いシグナルが点灯した。東京金は4000円～4200前後のレンジ相場となっており、ストキャスティクスが機能するものと考えられる。」と書いた。その後大きく上昇しレンジ上限も突破し、2月18日に4366円の高値をつけている。ストキャスティクスは高値圏にあり反落に注意は必要だが、強い上昇トレンドとなっているので安易には売らず、むしろストキャスティクスが下げた際に価格があまり下げなければ押し目として買う戦略が良さそう。

TOPICS ポリンジャーバンドと平均足

平均足は、ローソク足の実体部分の上辺・下辺に平均値を取り入れたもので、陽線や陰線が同じ色で連続する特徴がある。今回は平均足とポリンジャーバンドの組み合わせで分析したい。

まずレンジ相場では、ポリンジャーバンドは逆張り指標となるので、平均足が2σを超えた所で逆張りエントリーする。ただし、平均足の色が変わった所でエントリーでもいいが、それだと入るのが遅れることがあるので、平均足の値動きの勢いが無くなったところ（上下にひげが出たような場合）で入っても良い。損切りは、反転した時の頂点のちょっと先。利食いは、ミドルバンドか、反対の±2σラインに到達したところ。

ポリンジャーバンドが拡大しているようなトレンド相場では、買いの場合は平均足がミドルより上にあり、平均足が陽線になったとき、売りの場合は平均足がミドルより下にあり、平均足が陰線になったときに仕掛ける。利食いはポリンジャーバンドの上限または下限にタッチしたところか、あるいは平均足の色が反転するまで引っ張っても良い。損切りは平均足が反転するか、ミドルラインを割り込んだところ。

トレンド相場とレンジ相場の見極めが重要だが、レンジ相場が永遠に続くことはなく、いずれ上下どちらかに大きく動き出しトレンドが始まる。トレンド発生時に逆張りで行入るのはリスクが高いため、トレンドが始まったと感じた時は、順張りでの追従するようにしたい。

TOPICS 金市場をボリンジャーバンドと平均足で見てみよう

NY金はいまだ上昇トレンド



NY金

NY金は平均足が陽線のまま推移しているが、実体が短くなっており、やや勢いがなくなってきた。ただボリンジャーバンドは拡大し、ミドルラインも上昇しているのでトレンドは強い。

平均足がこのまま陰転した場合には再度陽転したところが押し目買いのポイントとなり、ボリンジャーバンドの上限に沿った動きとなるだろう。

東京金は再上昇へ



東京金

東京金もボリンジャーバンドが拡大し、ミドルラインも角度があり、強い上昇トレンドとなっている。平均足が昨日陰転したが本日再度陽転している。

平均足の陽線の実体ははっきりしてくるようならば、再びボリンジャーバンドの上限を目指した動きが予測される。

TOPICSs 他市場はどうか

東京白金は再び下降か



東京白金

東京白金はプラス2σまで到達せずに平均足が陰転している。ミドルラインとボリンジャーバンドも横ばいで、方向感を失いつつある。

ここはレンジ相場に当てはめ、売りで入りたい。目標はミドルラインもしくはボリンジャーバンドの下限となる。

東京ゴムはさらに下落へ



東京ゴム

東京ゴムは大きく下落したあと反発したが、プラス2σに跳ね返され平均足も陰転した。すでにミドルラインを割れるところまで下落しており、速度も速いことから、このままボリンジャーバンドの下限を目指す動きとなることが予測される。

ドル円は上昇する可能性も反転に警戒

ドル円



ドル円は平均足が陽線を保っているが、ボリンジャーバンドはほぼ横ばいかやや上向きでレンジの動きとなっている。ボリンジャーバンドの上限に近づいており、上昇したとしても反転する可能性が高い。

今後の予想

今週はボリンジャーバンドと平均足を利用し分析した。

NY金は平均足は陽線のままで、ボリンジャーバンドも上昇しており、強い上昇トレンドとなっている。一度バンド上限から離れているが、再度バンド上限を目指す動きとなるかどうかを注目したい。

東京金もNY金同様、上昇トレンドの勢いが強い。東京は一度平均足が陰転したあと再度陽線に変わってきたため、再び上昇基調へとなる可能性が高いだろう。

東京白金は大きく下落したあと上昇してきていたが、ボリンジャーバンドの上限に接近したのち、平均足が陰転した。再度の下落が警戒される。

東京ゴムも、大きく下落したあと反発したが、ボリンジャーバンドの上限に到達したあとに平均足が陰転した。こちらはすでにミドルラインも下回っており、ボリンジャーバンドの下限を目指す動きとなるだろう。

ドル円はレンジ相場となっており、上昇した場合でも勢いがなければ再度下落する可能性がある。

掲載される情報は株式会社コモディティー インテリジェンス（以下「COMMi」という）が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMiが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMiは保証を行なっており、また、いかなる責任を持つものでもありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はCOMMiに帰属し、事前にCOMMiへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

COMMiが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した場合でも、COMMiは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。

COMMiおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

発行元：株式会社コモディティー インテリジェンス
 〒103-0014東京都中央区日本橋蛸殻町1丁目11-3-310
 会社電話：03-3667-6130 会社ファックス 03-3667-3692
 メールアドレス：kondo@commi.cc